

「3歳児神話」と子育て意識について

—鳥取県内の子育て意識調査から—

村山 祐一

(鳥取大学教育地域科学部保育学研究室)

はじめに

子どもの育児や子育てにおいて、3歳までの育て方の大切さについて、「三つ子の魂百まで」という諺や「3歳児神話」という言葉で表現されたりする。発達論的にも3歳前後は子どもの成長・発達の大きな節目であり、3歳児前後までの育ちがきわめて重要であることは明白である。

この「3歳児神話」という言葉には「3歳頃までの乳幼児は子どもの発達にとってきわめて重要」という意味も含まれている。その意味ではきわめて当然な内容だ。しかし、この主張が、「乳幼児期の成長・発達の重要性」と「本来子どもへの愛情と適性は母親にあり、子育ては母親が最も適している」といった「母性神話」さらに「母親の育児専念責任」とが結びつけられて、「3歳までは、常時家庭において母親の手で育てるべきである」といった考えとして普遍化し、親や保育者の育児・子育ての意識や考え方に大きな混乱や影響を与えた。しかも、「女は家庭・育児、男は仕事」といった「性別役割分業」意識を助長し、1960年代の高度経済成長政策の「女性よ家庭へ帰れ」政策の合理的根拠として使われていったのである。そして、女性の社会や就労への参加を阻む根拠となり、また、父親を家庭・子育てから排除する要因、早期教育への過剰な関心をかき立てる要因ともなった。こうして「3歳児神話」は国民の間に根深く定着していったのである。だが、近年、厚生省は「厚生白書」平成10年版において「3歳児神話」は合理的根拠がないと批判した。

こうした状況の下で、今日、この「3歳児神話」が父母や保育者の間にどのように受けとめられているかについて、鳥取県内の子育て意識調査をふまえて検討してみる。研究室では鳥取県内の子育て意識調査を1999年(99年調査)、2000年(00年調査)、2001年(01年調査)と継続的におこなってきている。これらの調査において、乳幼児を持つ母親、父親、さらに保育者についての認識状況を分析してみる。

1. 2つの調査にみる3歳児神話への賛否の傾向

第1、厚生省人口問題研究所「第10回出生動向基本調査(平成4年)」によると、「少なくとも子ども

が小さいうちは、母親は仕事をもたず家にいるのが望ましい」という問に対して、「まったく賛成」47.9%、「どちらかといえば賛成」40.2%と約9割の女性が賛成(表1)。年代別にみると、20代、30代は微減しているが、40代では90%を超える。賛成について、仕事の有無別でみると、無職・家事では93%と高く、専業主婦層ではほとんどがこの考えに賛成しているが、有職者は84.8%にとどまっている。職業別に賛成をみると、専門・管理職では69%と低い、事務・販売・サービス84%、さらにパート・臨時雇いは89%と高く、明らかに有意差がみられる。

第2、ベネッセ教育研究所「子育て生活基本調査報告書」(1998年3月刊)では、幼児と小1、2年生を持つ母親を対象に、A「子どもが3歳くらいまでは母親が育てたほうがいい」、B「必ずしも母親でなくても、愛情をもって育てればいい」の2つの意見のうちから自分の気持ちに近いほうを選択させている。それによると、専業主婦層はAの意見つまり「3歳児神話」賛成が81.3%と高く、パート層も71.9%と専業主婦層に近いが、常勤者は46.5%と低い(表2)。これは、前述の「出生動向基本調査」とほぼ同じ傾向といえる。だが、賛成の割合がやや低いのは、90年頃と97年という時代の変化とベネッセ調査が子どもを持つ若い層に限定していることからの影響と思える。

2. 鳥取県内の母親の「3歳児神話」への意識状況 —99年調査を中心に—

私たちの99年調査では「子どもが3歳になるまでは母親は育児に専念すべきだ」という、いわゆる「3歳児神話」の考え方に「賛成」(「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」)か「反対」(「まったく反対」、「どちらかといえば反対」)かを尋ねた。「まったく賛成」(積極的賛成)が12.3%、「どちらかといえば賛成」(消極的賛成)が65.4%であり、両者をあわせた「賛成」が77.7%であり、「どちらかといえば反対」(消極的反対)が16.4%、「まったく反対」(積極的反対)が2.4%と両者をあわせた「反対」は18.8%である(表3)。これは前述の「98年ベネッセ生活基本調査」とほぼ同じ傾向にあるといえる。

次に“賛成”の内容についてみると、積極的賛成はきわめて少なく、「どちらかといえば賛成」という条件付賛成（消極的賛成）が約 85 % を占めている。“反対”の場合も同様に、条件付反対（消極的賛成）が約 87 % だ。この点は前述出生動向調査と違う点である。また、「どちらかといえば」という条件の内容がどのような意味を持っているかを調べないとその賛否の状況は正確に把握できない。「どちらかといえば」といった条件の内容によってはそれほど変わらないということもありうる。その意味で「3歳児神話」についてどのような内容として受け止めているかを検討しなければならないと考える。今回の調査では明らかにできなかったため、00年調査で試みたが、「3歳児神話」への多様な解釈がすすみつつあり、従来の傾向に崩れが生じつつあるといえる。

3. 母親の就労有無別にみた傾向

3歳児神話に“賛成”（積極的賛成+消極的賛成）は母親が働いていない層では 89.5 % と高いが、働いている層は 77.3 % とやや少ない。“反対”（積極的反対+消極的反対）をみると、働いている層は 22.7 % だが、働いていない層は 10.5 % と大変少ない。次に“賛成”、“反対”の内容を分析すると、働いていない層と働いている層との間に違いが見られる。消極的賛成はいずれもほぼ同じ割合だが、積極的賛成では、働いていない層が働いている層の約 2 倍強の 21 % に達している。“反対”については、積極的反対の割合はいずれもわずかであり差は見られないが、消極的反対は働いている層が働いていない層の 2.3 倍の 20 % だ（表 3-1）。このように、働いていない層は積極的賛成が一定の割合を占め、全体として賛成の傾向にあるといえる。これに対して働いている層は積極的賛成も積極的反対も少なく、消極的賛成が最も多く、同時に消極的反対も一定占めていて、きわめて慎重な対応を示している。

4. 保育所・幼稚園別にみた意識状況

－反対は保育所層に最も多い－

<保育所・幼稚園別>では、<母親の就労の有無別>と類似している。は幼稚園に通う子を持つ親の層は母親の働いていない層とほぼ同じ傾向になるが、積極的賛成が微減、消極的賛成が微増しているという若干の変化も見られる。これに対して保育所に通う子を持つ親の層は働いている層に大変近いが、積極的賛成、消極的賛成のいずれもがわずかに数%減少し、積極的反対、消極的反対のいずれもが増え、“反対”が 26.5 % に達し

ている（表 3-2）。3歳児神話への反対は保育所に預けている層が最も多いということになる。これは、働いている母親が保育所に子どもを預けることで、保育所保育により子どもの成長の姿を実感することで、3歳児神話の不合理性に気づいたことのあらわれといえよう。（以下省略）

- 4. 父親の「3歳児神話」への意識状況
- 5. 保育者はどのような傾向か
- 6. 3歳児神話への多様な解釈と変化
- 7. まとめ－子育て意識への影響について

表1 子育てと仕事について(1)

	総数	少なくとも子供が小さいうちは、母親は仕事を持たず家にいるのが望ましい。					
		全く賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	全く反対	不詳	
総数	8844	4232	3555	671	217	169	
	100.0%	47.9%	40.2%	7.6%	2.5%	1.9%	
妻の年齢	25歳未満	283	139	103	31	8	2
		100.0%	49.1%	36.4%	11.0%	2.8%	0.7%
	25～29歳	1158	499	496	124	27	12
		100.0%	43.1%	42.8%	10.7%	2.3%	1.0%
	30～34歳	1649	696	727	138	65	23
		100.0%	42.2%	44.1%	8.4%	3.9%	1.4%
	35～39歳	1842	843	754	159	46	40
		100.0%	45.8%	40.9%	8.6%	2.5%	2.2%
	40～44歳	2269	1162	870	145	48	44
		100.0%	51.2%	38.3%	6.4%	2.1%	1.9%
45～49歳	1643	893	605	74	23	48	
	100.0%	54.4%	36.8%	4.5%	1.4%	2.9%	
妻の現在の職業	主として農林水産業	167	88	62	11	1	5
		100.0%	52.7%	37.1%	6.6%	0.6%	3.0%
	自家営業	758	373	290	65	17	13
		100.0%	49.2%	38.3%	8.6%	2.2%	1.7%
	専門・管理職	664	174	285	132	58	15
		100.0%	26.2%	42.9%	19.9%	8.7%	2.3%
	事務・販売・サービス	1206	458	551	126	51	20
		100.0%	38.0%	45.7%	10.4%	4.2%	1.7%
	現場労働	379	186	150	25	9	9
		100.0%	49.1%	39.6%	6.6%	2.4%	2.4%
	パート・臨時雇い	1795	902	693	133	34	33
		100.0%	50.3%	38.6%	7.4%	1.9%	1.8%
	無職・家事	3736	1999	1471	168	44	54
		100.0%	53.5%	39.4%	4.5%	1.2%	1.4%
	学生	2	1	1	0	0	0
	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
その他	52	19	22	5	2	4	
	100.0%	36.5%	42.3%	9.6%	3.8%	7.7%	
不詳	85	32	30	6	1	16	
	100.0%	37.6%	35.3%	7.1%	1.2%	18.8%	

厚生省人口問題研究所「第10回出生動向基本調査」(1992年)

表2 子育てと仕事について(2)

	専業主婦	パートタイ	常勤者	全体 (%)
A 子供が3歳くらいまでは母親が育てた方がいい	81.3	71.9	46.5	66.6
B 必ずしも母親でなくても愛情を持って育てれば	18.7	28.1	53.5	33.4

ベネッセ教育研究所「子育て生活基本調査報告書」(1998年3月)